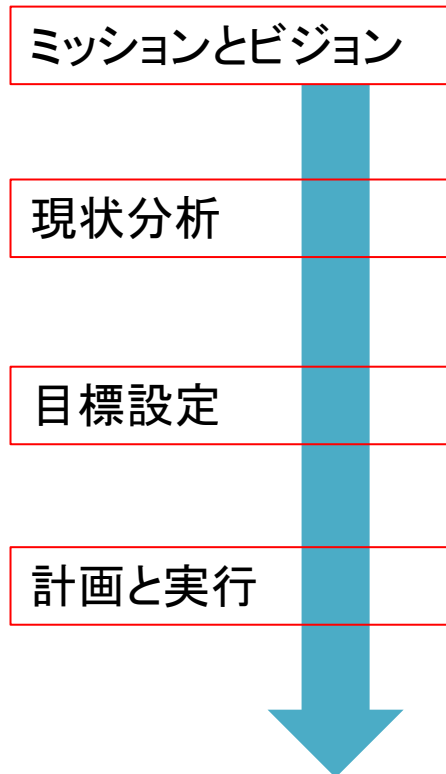


- I. 目標設定
 1. 既存の学群は、学類化を中心に改編する
 2. 特定の分野については、新学群を設置する
 3. 学類化や新学群の設置を通してカリキュラムを整理し、適切な教員数等を設定する
- II. 現状分析
 1. 大学事業全体の環境
 - ① 経済・産業的環境
 - ② 社会・文化的環境
 - ③ 法制度・政治的環境
 - ④ 技術的環境
 2. 本学が置かれている環境
 - ① 規模の変化と位置
 - ② 成長性
 - ③ 財務状況と収益性
 - ④ 競合の状態と学生募集
- III. ミッションとビジョン
 1. ミッション
 - ① 「キリスト教主義教育に基づく国際人の育成」の現代的実践
 2. ビジョン
 - ① 2021年の創立100周年に向けた中長期計画に基づく大学作り
 - ② 私立大学として特色ある教育研究を実践する大学
 - ③ 社会的に信頼され、存在価値が高く、持続的な教育研究活動を行える大学
 - ④ 収容定員10,000人を有する安定した経営に基づく大学



- I. 経済・産業的な動向
 - 1. 経常経費の上昇に対する私学助成の停滞
 - 2. 銀行や共済事業団による貸付事業と金利
 - 3. 税制上の特例措置、学校法人出資会社の活用
 - 4. 学校経営の改善、学校会計の変化
 - 5. 高等教育市場の多様化
 - 6. 国を超える国際的な高等教育市場
 - 7. 学納金の戦略、奨学金の種類
 - 8. アドミッションポリシーに基づく多元的評価を重視した選抜（学力の3要素: 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）
 - 9. 入学定員/収容定員の厳格化
 - II. 社会・文化的環境
 - 1. 大学教育への具体的な期待（実務指向、就職指向）
 - 2. 18歳人口減少、ユニバーサル化、全入の影響
 - 3. 国内外の大学教育の比較、海外大学への進学
 - 4. 大学そのものに対する投資対象としての価値の減少
 - 5. 大学ランキングの影響
 - III. 法制度・政治的環境
 - 1. グローバル大学への支援拡大
 - 2. 留学生を受け入れる大学を支援
 - 3. 日本を発信する大学支援
 - 4. 理工系人材育成、産学官協同、理数教育強化
 - 5. 社会人向けオーダーメイド型プログラム
 - 6. 大学のマネジメント、ガバナンス改革の支援
 - 7. 実践的な職業教育を行う高等教育機関の制度化
 - IV. 技術的環境
 - 1. ICT (Information and Communication Technology): 情報通信技術の教育研究における活用
 - 2. 情報端末の進化
 - 3. コンテンツの進化
 - 4. 教室・学習室の進化
 - 5. コミュニティ形成の多様化
- 重要なテーマ**

 - ・経費管理、財務計画、経営の強化
 - ・高等教育に関する価値の変化と対応
 - ・法制度の動向と対策
 - ・ICT技術の積極的な活用
 - ・事業の精査（質と量、収支バランスなど）
 - ・教育研究の質保障

I. 規模の変化と大学の位置

1. リベラルアーツ学群(950/3800)、ビジネスマネジメント(480/1920)、グローバルコミュニケーション(250/1000)、健康福祉(200/800)、芸術文化(250/1000) 合計(入学定員:2130/収容定員:8520)

2. 他大学の規模(在籍者概数)

日本大学	68000	青山学院大学	18000
早稲田大学	44000	神奈川大学	18000
明治大学	30000	国士舘大学	15000
慶応義塾大学	29000	駒沢大学	15000
法政大学	28000	東京理科大学	15000
東洋大学	28000	大東文化大学	12000
東海大学	28000	明治学院大学	12000
中央大学	25000	関東学院大学	12000
帝京大学	25000	国学院大学	10000
専修大学	19000	上智大学	10000
立教大学	19000	立正大学	10000

II. 成長分野

1. グローバル人材の育成: ビジネス、コミュニケーション、イノベーション、リーダーシップ
2. パイロット育成
3. 介護、福祉、健康管理系の人材育成: 人口減少、高齢化
4. ICT系人材: プログラミング、エンジニアリング
5. コンテンツ関係の人材育成: 作成、管理、運用
6. 特別教育: 初等中等教育、社会人教育、職業教育



本学が担う
べき教育研
究の選択

III. 財務状況と収益性

1. 人件費比率、報酬委託費等の管理
2. 教育研究費、管理費の確保
3. 基本金積立、投資の確保
4. 学納金収入、補助金収入、事業収入等の増収
5. 経費の削減
6. 事業計画と予算の管理



バランスが
取れる経理
と財務管理

IV. 競合と学生募集

1. リベラルアーツ系
 - ① 人文社会系との競合が中心
 - ② 自然科学系の強化が課題
 - ③ 特色ある学際プログラムの展開が重要
2. プロフェッショナルアーツ系
 - ① 時代の変化、社会の要望にあった領域とプログラムの展開
 - ② いつの時代でも必要とされる専門領域



特色があり、
差別化でき
るプログラ
ムの展開

I. ミッションの確認

1. キリスト教主義の教育に基づく国際人の育成

- ① 全能の神に仕え、真摯に真理、知、技能を求め続ける態度
- ② 隣人愛:「己を愛するがごとく隣人をも愛せよ」という精神。無償の愛、ボランティア精神など。
- ③ 学而事人:学んで人に仕える。学んだことを社会に還元することの実践。
- ④ 外国語、特に、英語や近隣諸国で話されている言語の修得。パンフリスト精神(平和主義)。

2. 教育思想のルーツの確認

- ① 崇貞学園のミッション: 工且読書、Heart, Head, Hand、学而事人
- ② Oberlin College、及び、Jean Frederic Oberlinの影響: Learn and Labour

II. 創立者、清水安三先生のチャレンジ

1. 飢饉地の災童のための収容所: 貧しい子女のための教育
2. 崇貞学園: 女性の自活のための教育
3. 桜美林学園: 敗戦後、日本再建のため、農村の教化から始める
4. キリスト教の精神と語学を収めた人材育成

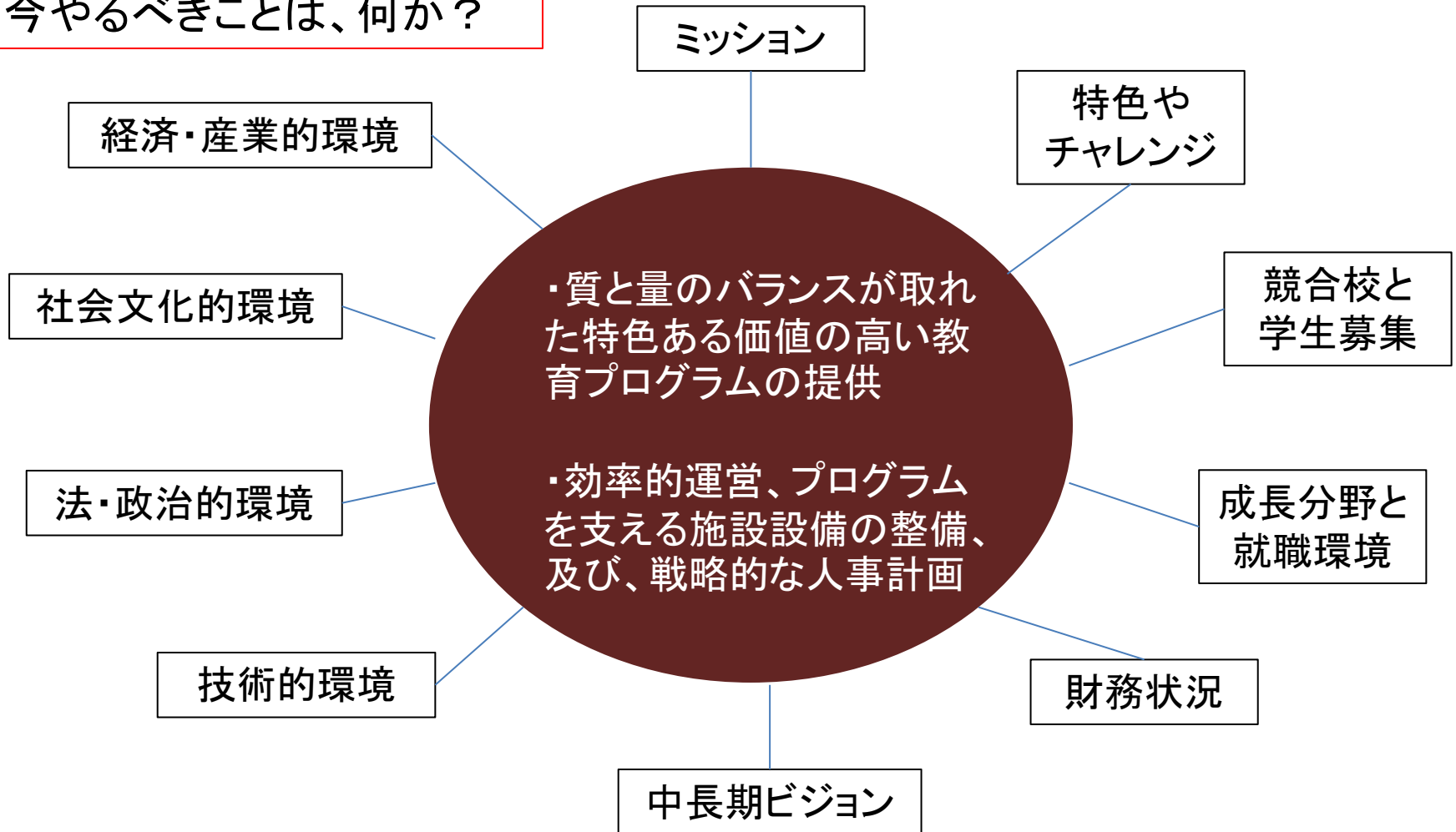
III. 大学のビジョン

I. 2012年、創立100周年時の大学の姿

- ① 収容定員10000人を有し、経営が安定している
- ② 社会的価値に信頼され、存在意義や相対的な価値が高い
- ③ 桜美林で学びたい学生、働きたい教職員の数が多い
- ④ 私立大学として特色ある教育研究を実践する
- ⑤ 教育研究のレベルが高く、国際的に通用する
- ⑥ 様々な国籍の学生や教職員が学び、教えるグローバルキャンパス
- ⑦ キリスト教主義に基づく教育が浸透し、学生や教職員の言動がそれを具現している

- 真理を求め、知識や技能を修得する態度(神と学問)
- 隣人愛の修養(社会教育)
- 外国語の修得(平和教育)
- 理論と実践の教育(実務教育)
- 厳しい需要へのチャレンジ(勇気と信仰の教育)
- 国や文化を超えた教養(国際、グローバル教育)

今やるべきことは、何か？



I. クラスタ・カレッジの推進

UNIVERSITY
(ミッションとビジョン)

1万人規模の大学

リベラルアーツ系カレッジ
(総合学術教育)

プロフェッショナルアーツ系カレッジ
(特定領域専門教育)

リベラルアーツ学群

ビジネスマネジメント学群

芸術文化学群

健康福祉学群

グローバルコミュニケーション学群

新学群

独立性の高い、特色ある、差別化されたカレッジ群

II. クラスター・カレッジごとの運営

	L. A.	B. M.	健康福祉	芸術文化	G. C.
教育分野と特色					
収容定員					
教員定数					
人件費(含職員)					
教育研究経費					
アドミッション経費					
キャリア経費					
学生生活経費					
その他の経費					
主な校地・校舎					
学群の学納金総額 に対する諸経費の 割合(80%基準)					

事業としての採算性、収益性、合理性、競争力、特徴などを見極める

III. 目標の設定

1. 学類化を中心としたカリキュラムの改編と収容定員増
 - ① カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーの設定
 - ② 学類化による新たな入学定員と収容定員の設定
 - ③ 分野に応じたカリキュラムの整備、適切な科目の種類、科目数、履修構造等の設定
 - ④ 科目の組み合わせによる専門的、学際的なプログラム(専攻や専修)の設定
 - ⑤ 学群教育の柔軟性を担保するための、学群と学類の定義や運営方針の設定
2. 特定の分野における新学群設置
 - ① グローバルコミュニケーション学群
 - ② グローバル教育学群(検討中)

学群とは

- 隣接する領域を中心にして大きく束ねた教育の枠組み。専門と教養の教育を実現する。
- 学群としての共通教育や、学群の哲学思想を反映させた特色ある教育を行う。
- 学群は学類から成り、大きな学群は複数の学類で構成される

学類とは

- 学術の体系を構造的に学べるユニット。縦構造の学び、横断的な学びのプログラムを構築する。
- 一定の学生の所属、一定の教員の所属を基本として、同領域のコミュニティを構築する。
- リベラルアーツ系の学群は、入学後、専攻に進むため、学群教育→学類教育という順番となる。プロフェッショナルアーツ系の学群は、学類教育と学群教育を並行して進める。
- 各学類には、入学定員が定められ、質と量のバランスが取れた教育を保証する。

- 在籍する学生数10000～12000人程度の大規模校
- 特色あるプログラムを展開する独特な独自性の高い
クラスターカレッジ群
- 学生募集、補助金獲得、事業収入等が順調で、効率的な経営に基づく強固な財務基盤を有する学園
- ICT環境と施設設備が充実した教育研究環境
- 「キリスト教主義教育」の現代的な実践と「国際的な
キャンパス」が実現された教育環境
- 教育研究についての社会的な価値が高く、世界から
人が集まる大学